

## 議会報告会実施報告書

開催日時	令和6年2月24日（土）午後1時59分～午後4時	
開催場所	パピオスあかし6階会議室	
出席議員	班 長	飯田委員長
	司 会 者	寺井委員
	記 録 者	上田委員、金尾委員
	そ の 他	三好副委員長、灰野委員 アンケート集計 黒田委員
参加人数	2名（一般社団法人明石市医師会1名、兵庫県病院局1名）	
内 容	<p><b>●明石市医師会からの地域医療連携と災害医療に関する報告</b></p> <p>医師は、病気・怪我の人を対象にしているが、医師会としては、そのような方々だけではなく、生活に困っている人・ハンディキャップがある人など、いろいろな方に優しく接していきながら、優しく、みんなで支え合うような社会を目指す活動を行っている。</p> <p>コロナ禍においては、保健所、市民病院、市医師会の三者が、お互いの立場を尊重しながらの連携によって効率的な医療が行われた。</p> <p>指定感染症の流れは、次のとおり。①患者の診断、②発生届を保健所に提出、③患者を指定医療機関に搬送、④患者周囲の疫学調査、⑤患者を隔離しての入院治療。</p> <p>①・②は一般医療機関が、③・④は保健所が、⑤は指定医療機関が、それぞれ担う。ところが2類感染症の新型コロナウイルス感染症においては、感染拡大が著しく、この原則が維持できなくなったため、保健所が窓口となる医療連絡会を作り、保健所、市民病院、明石市医師会の医療機関の三者で協力し合いながらコロナの診療を行ってきた。</p> <p>災害時には、医療需要と医療資源とのバランスが崩れるため、壊滅的な結果をもたらす。</p> <p>日本医師会災害医療チーム（JMAT）や災害医療派遣チーム（DMAT）などが災害救護団体として被災地に入り、医療資源を提供し、災害前からの医療の継続・医療ニーズの把握と対処など、多岐にわたる活動を行っている。</p> <p>災害医療に関してもコロナ医療と同様に、市の医療のコントロールセンターである保健所を中心に、公立病院である市民病院、市医師会の医療機関の連携を軸にして、市民の安心と安全を確保する必要があり、その仕組みづくりが喫緊の課題である。</p> <p><b>●兵庫県病院局による県立がんセンターの建て替え整備、市地域医療との連携に関する報告</b></p> <p>本年1月の能登半島地震においては、県では、県内の市町などと協力しながら、人的・物的支援を行っている。また、県立病院としても災害医療派遣チーム（DMAT）や災害派遣精神医療チーム（DPAT）の派遣を行うなど、被災者に寄り添った支援を行っている。</p>	

	<p>県立がんセンターは築40年が経過し、施設の老朽化・狭隘化が進み、増改築も困難な状況であるため、令和8年度の完成を目指し、現地建て替えを進めている。</p> <p>新しいがんセンターの特徴は、次のとおり。</p> <p>①患者本位の病院設計（スムーズな患者動線・医療スタッフステーションから病室への良好な視認性・開放感のある療育環境）</p> <p>②災害への備え（河川浸水対策・非常時における医療機能の維持・感染症を持ち込ませない水際対策）</p> <p>③最先端のがん医療の提供（将来の医療高度化に対応できるよう、建物増築スペースを確保）</p> <p>がんとの合併症患者数は年々増加。県内の将来推計として、がん及び主な合併症である心疾患、脳血管疾患、糖尿病の患者数は2035年頃まで増加する見込み。</p> <p>がんセンターにおける合併症の対応状況として、各医療機関の得意分野や地理的条件等の特徴を踏まえ、疾患別及び治療の段階別に類型化・パターン化し、心疾患は主に総合病院（明石医療センター、明石市民病院など）と、脳血管疾患は主に専門病院と、糖尿病は主にかかりつけ医と、それぞれ連携している。</p>
<p>主な意見・提言と応答</p>	<p><b>飯田委員長：</b>高齢化の進展、医療技術の進歩など医療を取り巻く環境が変化する中、能登半島地震が発生し、広範囲にわたり医療提供体制の維持が非常に困難になった状況を目の当たりにするなど、市民の安心を支える地域医療連携の重要性を再認識しているところである。</p> <p>本日は、関係者の皆様のご報告、ご意見をお伺いし、忌憚のない意見交換の場にしたかったので、よろしくお願いします。</p> <p><b>金尾委員：</b>社会的弱者への対応をさらに充実させる必要があると考えるが、意見を伺いたい。</p> <p><b>医師会：</b>災害時では、社会的弱者がさらに社会的な課題を背負うことになる。市民病院敷地内にあるあかしユニバーサル歯科診療所で多様な歯科診療を行えるように、一般の診療所では診療が困難な方々に対応できる医療の仕組みが必要であると考えている。</p> <p><b>上田委員：</b>災害時の医療提供体制や、避難所での感染症対策はどのようにお考えか。</p> <p><b>医師会：</b>災害時においては、被災地の受援の体制整備が必要である。被災地に医師など医療関係者が支援に来て、受け入れ側の環境が整っていないと非効率である。感染症対策としては、接触を避けることが求められるが、避難所ではそのようなスペースもない。物理的なことで対応できなければ、マスクの支給や、手洗いやうがいの出来る水の確保といった公衆衛生面を整える必要がある。</p> <p><b>黒田委員：</b>新型コロナウイルス感染症への対応を経て、平時と有事の考え方や市民病院の役割について伺いたい。</p> <p><b>医師会：</b>有事においては、医療に携わる者として我々にできない大変な医療を市民病院に担っていただいたこともあり、平時においては、市民病院として何かすることがあれば協力をしていきたい。</p> <p>一つの病院で全ての医療を完結するのは、医療資源を考えると無理なので、ある程度絞って、絶対に必要というところと考えていかなければいけない。そのため、何から何までではなく、近隣の病院との搬送の仕組みなどの条件を整理しながら、やはり公立病院の明石市民病院でないといけない医療というものを整理していくべきである。</p>

**灰野委員**：市民病院の建て替えの方針は未定であるが、仮に県立がんセンター隣接地に市民病院が移転した場合のメリット・デメリット、実現可能性について意見を伺いたい。

**県病院局**：現在においても、がんセンターは、心疾患などの合併症への対応という面では市民病院としっかりと連携している。今後さらなる連携を行うことは、がんセンターにとっても有用なことであるが、現在、明石市役所の内部で検討チームが設けられて、今後の方針を決めるということをお聞きしているので、その状況を見守る段階であると考えている。

**医師会**：がんセンターは現在地の隣地で建て替えとなっており、県にとっての跡地利用を含めて、県と市でしっかりと話し合いをすることが重要である。

**寺井**：本市の令和6年度予算案で小児科診療所開設助成金の創設が提案されているが、今後の本市の医療関係施策に対して意見を伺いたい。

**医師会**：病児・病後児保育については、保護者が安心して働ける環境づくりのためにも、大事な事柄であると考え、医療機関併設型だけでなく、新たな保育所併設型の病児保育所にも協力の具体化を提案している。

乳幼児健診の際においても小児科医が不足していることは認識しているので、小児医療の充実のために、具体的な制度設計を一緒にしていきたい。

**三好副委員長**：活発な意見交換ができた。文教厚生常任委員として、地域医療の連携について学ぶことができたことから、議員活動、他の議員への働きかけに活かしていきたい。

明石市議会議長 様

令和6年3月28日

上記のとおり報告します。

文教厚生常任委員長 飯田 伸子